

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38682	
事業名	GIGAスクール構想推進費						
評価担当課	所属名	教)生涯学習部 総務課					
	課長名	水野 栄二	担当者名	高村 慎太郎	電話番号	011-211-3826	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	新学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」に有効な手立てであるタブレットPCについて、教員や児童生徒が授業で使用できる1日当たりのコマ数を、文部科学省から提示された水準である「1コマ/日」にできるだけ早く近づける(H30年度実績:0.156コマ/日)。				
		長期	ICTを効果的に活用した授業等の実施によって、教育の質の向上を図り、情報化・グローバル化した社会への対応を進めるとともに、子どもたちの学ぶ力・生きる力を育成し、創造性豊かで様々な課題に果敢に立ち向かい、札幌・世界の将来を担う自立した札幌人を育む。				
	取組内容	①ICTを活用した授業を日常的に実施できるよう、これまでのICT機器の整備に加え、教員が使用する授業用タブレットPCや特別支援学級の子どもたちが使用するタブレットPCを整備 ②ICT機器の更新・維持管理、デジタル教材の整備、学校用ネットワーク運用管理等					
	実施結果	国のGIGAスクール構想の下、市立の小中学校において児童生徒1人1台のタブレットPC上で利用可能な教育用ソフトウェアの整備を行うとともに、各学校におけるインターネット接続方式の変更等を実施することにより、すべての児童生徒が学校内における授業時にいつでもタブレットPCを利用することが可能となった。					
事業実施における工夫点	機器及び役務の調達にあたっては、国の補助金事業を最大限活用するとともに、事業者や他都市から情報収集し、必要十分な機能を備えながら維持管理費を圧縮する仕様とするように努めている。						
対象者	市立幼稚園・学校の児童生徒及び教職員			開始	令和3年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	GIGAスクール構想						
他都市の状況	原則として、全国の自治体において、2020年度に小中学校の1人1台端末の整備を完了。						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	0	775,000	727,869	812,000	
うち特定財源	0	39,925	54,868	0	
人工	0.0	6.0	6.0	6.0	
人件費	0	43,200	43,200	43,200	
計(事業費+人件費)	0	818,200	771,069	855,200	
事業費の内訳	令和3年度決算	・教育用ソフトウェアの整備 174,061千円 ・1人1台タブレットPCの代替機等の整備 281,369千円 ・GIGAスクールサポーターの配置 54,868千円 ・その他 217,571千円			
	令和4年度予算	・教育用ソフトウェアの整備 293,269千円 ・1人1台タブレットPCの代替機等の整備 364,671千円 ・高等学校での端末活用に向けた整備 11,484千円 ・その他 142,576千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	授業でタブレットPCを使用できる1日当たりのコマ数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	4.85コマ/日	4.85コマ/日	4.85コマ/日	4.85コマ/日	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	授業や校務にICTを効果的に活用できる教員の割合			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	73.60%	77.00%	80.00%	77.00%	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	国のGIGAスクール構想の前倒し実施もあり、すべての市立小中学校の児童生徒1人1台タブレットPCが整備され、学校内においては児童生徒が授業でタブレットPCを使用するにあたっての制約がなくなり、1日当たりのコマ数は「4.85コマ/日」と計画を大きく上回る成果となった。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	国のGIGAスクール構想に準じた整備を行っており、事業規模は適切と考える。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	国のGIGAスクール構想に準じた整備を行っており、実施手法は適切と考える。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	目標「0.45コマ/日」に対し、「4.85コマ/日」を達成しており、対象者ニーズに十分応じることができたと考える。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	令和3年度までに児童生徒が1人1台のタブレットPC及び個別学習ドリル等の教育用ソフトを授業時にいつでも使用できる環境の整備が完了したことから、今後は教職員がタブレットPCをいつでも使用できる環境の整備を行う。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	令和2年度に引き続き、GIGAスクール構想の推進に係る対応を行った。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	指標である「児童生徒が授業でタブレットPCを使用できる1日当たりのコマ数」は、目標を大きく上回る成果となった。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善    ● 現状維持    ○ 休止・廃止 引き続き、1人1台タブレットPCの整備に係る保守・運用を継続していく。			
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充    ○ 現状維持    ○ 縮小    ○ その他 タブレットPCの活用を一層推進するため、教職員に対しても1人1台端末の整備を行う。		見直し効果額	0